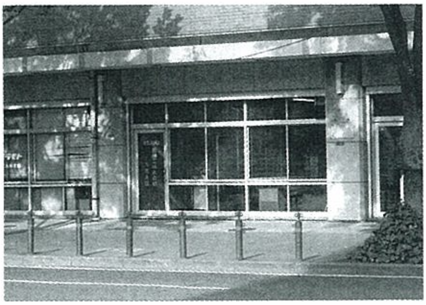
わが街わが故郷

旭精工株式会社西日本支社と北九州市

会 社 名　旭精工株式会社 西日本支社
所 在 地　〒802-0001
北九州市小倉北区浅野２－15－１
（小倉興産１号ビル内）
電話番号　093-551-3081

当事業所は昭和32年12月に北九州市小倉北区に小倉出張所として開設され、昭和39年６月北九州営業所、昭和58年９月九州支店と呼称変更を繰り返し、平成12年３月西日本支社として現在に至っております。

山口県の一部、九州全域、沖縄県を営業エリアとして軸受ユニット、エアークラッチ･ブレーキ、直線運動機器等を販売店を通じて営業活動しております。



旭精工株式会社 西日本支社

〈北九州市の紹介〉

1963年２月10日に五市が合併し、北九州市が誕生しました。「北九州」という言葉は九州電気軌道株式会社が発足し、その営業領域が門司から八幡にまたがることになり、それらを総称する呼び方が必要になり生まれてきたということです。

北九州は一時期「文化の砂漠」、「文化不毛の地」といわれていましたが、別に文化人がいないわけではありません。文化施設、文化活動があまりみられないということに対する批判ではないでしょうか。

〈近年の北九州市の紹介〉

北九州市は都市の再生をかけ「北九州ルネッサンス」構想を発表し、2005年を最終目標として「水と緑とふれあいの“国際テクノロジー都市へ”」を基調テーマに「緑とウォーターフロントの快適居住都市」、「健康で生きがいを感じる福祉文化都市」、「国際技術情報都市」、「海に広がる交流都市」、「アジアの学術・研究都市」の５つの都市像を進むべき道として掲げています。

〈未来の北九州市〉『もったいない』の“メッカ”

世界の環境首都を目指す北九州市のエコタウン（北九州市若松区響灘町）の総合環境コンビナートで、複合中核施設が４月１日から稼働しています。自動車の破砕くずをはじめ、エコタウン内外から排出される廃棄物をガス化溶融炉

で処理し、発生した燃料ガスで発電すると同時に、メタルやスラグを製造して再資源化し、限りなく「ゼロ・エミッション（廃棄物ゼロ）」へ近づける一石三鳥の仕掛けが実現しました。

若松沖に広がる北九州エコタウン

北九州エコタウン事業は1997年（平成９年）に全国初の承認を受けて開始。2002年（平成14年）に策定した二期計画では2010年度を目標に、事業エリアを響灘埋立地の東部地区全体に拡大。さらに2004年（平成16年）には、事業エリアを市内全域に拡大しています。

北九州エコタウン内にある風力発電

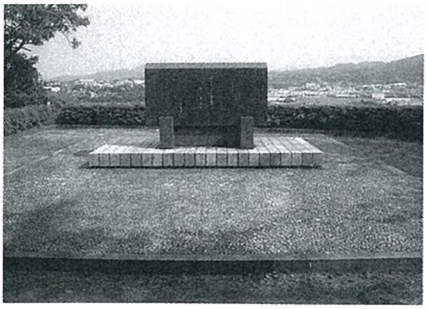
〈作家と北九州市〉

北九州市からは３人の芥川賞受賞者が出ています。第３回受賞、アイヌ伝説を題材にした「コシャマイン記」の鶴田知也、第６回受賞「糞尿譚」の火野葦平、第28回受賞「ある小倉日記伝」の松本清張です。

〈火野葦平と北九州市〉

火野葦平は「土と兵隊」、「麦と兵隊」、「花と兵隊」のいわゆる「兵隊三部作」や「花と竜」など活発な作家活動を続け、「九州文学」をはじめ文学活動の世話にも力を注ぎました。

火野葦平は若松の自宅で自らの命を絶つまで、若松の地を離れることはありませんでした。



火野葦平記念碑

〈松本清張と北九州市〉

松本清張は小倉に生まれましたが、地元の文学同人誌とは無縁でした。松本の活動は幅広く、ルポルタージュ、評論、古代史、推理小説などの分野で話題作を次々と発表し、各種の賞を受賞しています。

松本清張記念館

特に「点と線」という推理小説は、それまでのいわゆる探偵小説から社会派推理小説への大きな転換をもたらし、今なお推理小説の最高峰をなしています。さらに、「古代史疑」や「邪馬台国」論争などにみられるように、綿密な資

料に基づく作風や政治の腐敗構造を題材とする作品は、その後多くの作家に影響を及ぼしました。そうした創作活動は小説の分野に学究的要素を入り込ませ、作品に学際的な特徴を与えています。

〈森鷗外と北九州市〉

明治の文豪、森鷗外は1899年6月、陸軍第12師団軍医部長として着任しました。

鷗外は家に老齢の祖母、母、弟、10歳の長男を残して遠い地での転任にずいぶん悩みながらも、小倉での生活を鍛治町で始めました。9月に地元（福岡日日新聞）に「我をして九州の富人たらしめば」を寄稿し、のちに「小倉安国寺の記」などを書きました。鍛治町の住まいは市指定史跡として残されています。

森鷗外旧居

翌年の暮れに京町5丁目へ移り、「即非年譜」（福岡日日新聞）、「和気清麻呂と足立山と」（門司新報）などを書きました。鷗外は1902年に再婚し、同年3月、東京に帰任することが決まりました。

帰京後、小倉時代の生活を題材にした作品として「鶏」、「独身」、「二人の友」などがあります。

（旭精工株式会社 西日本支社　曳村 忠幸）